



三重県公立小中学校教頭会
〒514-0003 津市桜橋2丁目142
教育文化会館別館3階
TEL 059 (228) 2340
FAX 059 (228) 2271
E-mail:mieheadt@hyper.ocn.ne.jp



会長就任にあたって

鈴鹿市立白子中学校
池 畑 直 哉

5月13日（金）にハイブリッド型オンラインで開催されました「第57回三重県公立小中学校教頭会総会」におきまして、私を含め8名を新役員として選任していただきました。諸先輩方が築かれた歴史を深く感じながら、このような重責を務めさせていただくこととなり、身の引き締まる思いがいたします。

本教頭会の伝統を引き継ぎ、さらに発展させるため、役員一同、精一杯務めさせていただきますので、会員の皆様の深いご理解と温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍での学校生活が3年目となり、各学校におかれましては、昨年度に引き続き新型コロナウイルスに対する感染拡大防止に最大限努めつつ、「新たな生活様式」の中で試行錯誤しながら、様々な教育活動が行われていることと思います。まだまだ制限のある生活を強いられる中ではありますが、より豊かな学校生活の創造に向けて、日々努力している子どもたちのたくましく、また前向きな姿が多くみられます。その姿に心を打たれるとともに、教育者として、未来を生きる子どもたちのためにより一層尽力していかなければならないと思いを強くする今日この頃です。

一方、学校現場を取り巻く環境は複雑化・多様化するとともに、教頭の職務は多種多様となり、労働環境も大変厳しい状態が続いています。いじめの問題や不登校児童生徒への対応、

GIGAスクール構想の推進、働き方改革、教職員の資質・能力の向上やミドルリーダーの育成、「令和の日本型学校教育」の構築など、教育を取り巻く課題は山積しています。さらに、昨年度から小中学校ともに「新学習指導要領」が全面実施となり、「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラムマネジメント」、「社会に開かれた教育課程」、「特別の教科道徳」の実施や、小学校での「外国語科」の新設等を柱とした指導方法の工夫や授業改善等が求められています。そのような中、私たち教頭は、新しい時代にふさわしい教育の創造に向けた学校運営を目指し、教職員一人ひとりが自信と誇りをもって子どもたちと向き合い、質の高い教育が行えるよう、社会の動向や教育課題の的確な把握に努めるとともに、学校教育の在り方について模索し、真摯に取り組んでいかなければなりません。

本教頭会は、子どもたちのよりよい成長のため、常に学ぶ姿勢と強いつながりをもって、教育政策にも積極的に提言を行う職能団体としての自覚を持ち、「未来を生きる力を育む、魅力ある学校づくり」に向けて邁進していくことを目的にしています。そして、私たちは教頭として、常に管理職としての誇りと希望を胸に職務に精進し、教頭会の充実と発展のため、ともに手を携え合っていかなければなりません。会員の皆様方の力強いご支援とご協力を重ねてお願いし、会長就任の挨拶とさせていただきます。

令和4年度 県教頭会本部役員名

役 職	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
会 長	池 畑 直 哉	鈴鹿市立白子中学校		
副 会 長	杉 山 達 弘	松阪市立鵜小学校		
副 会 長	田 中 智 彦	伊賀市立成和東小学校	松 本 克 也	四日市市立塩浜小学校
書 記	山 川 恵利香	志摩市立神明小学校	庭 山 俊 彦	津市立久居中学校
会 計	畑 中 伸 一	紀宝町立相野谷中学校	谷 村 千 秋	津市立西橋内中学校

事 務 局 長	辻 幸 子
---------	-------

E-mail : mieheadt@hyper.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://mie-kyotokai.jp>

令和4年度

研修会並びに定期総会（第57回）が開催されました

令和4年5月13日（金）にハイブリッド型オンラインにより、第57回定期総会が開催され、すべての議事が承認されました。

参集型で行っていた総会が、近年、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、オンラインで開催されておりました。しかし、今年度は少しでも会場に参集していただき、ともに時間を共有できればと考え、ハイブリッド型オン



今年度の役員です よろしくお願ひします

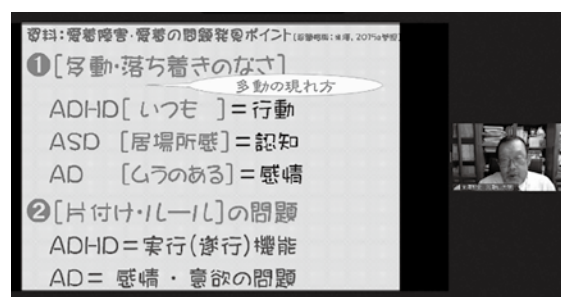
ラインで開催させていただきました。運営するにあたりいろいろな課題はありましたが、今後のさまざまな機会に対応していきたいと思ひます。

研修会では、和歌山大学教育学部教授 米澤好史さんによる『愛着障がいの理解と支援』についての講演が行われました。私たちが日頃接している子どもたちの気になる行動について、



昨年度役員のみなさん ありがとうございます

支援の仕方に悩む場面がたくさんあります。その行動・現象が愛着障がい原因なのか、発達障がい原因なのかという見極めがとても重要であると話されました。見極めるためには、私たちが、しっかり愛着障がいについて理解しなくてはなりません。今回の米澤先生のお話をきっかけに、教頭である私たちがまず困っている子どもたちに寄り添い、先生たちと一緒に考えて行く現場を目指していきましょう。



令和4年度 県教頭会 専門部員名

◎部長 ○副部長 ◇本部

総務部	◎池下 浩人 片岡 弓	○但馬 淑夫 辻 早織	樋口 裕康 福山 貴久	◇池畑 直哉 ◇杉山 達弘
研究部	◎吉村 永子 吉岡 良江	○鈴木 健司 三宅 孝史	長尾 竜二 東 一郎	◇田中 智彦 ◇松本 克也
調査部	◎竹尾 到 奥山 能隆	○吉兼 友紀	島田 美樹	◇畑中 伸一 ◇谷村 千秋
広報部	◎加藤 元由 山本 時生	○西尾 奈緒子	西口 幸助	◇山川 恵利香 ◇庭山 俊彦

令和4年度 郡市会長・県教頭会理事名

郡市名	会 長		理 事	
	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
桑名市・桑名郡	五軒矢 喜 一	光風中学校	吉 兼 友 紀	藤が丘小学校
いなべ市・員弁郡	島 田 美 樹	藤原中学校	島 田 美 樹	藤原中学校
四日市市(小)	神 谷 敦 巳	富田小学校	鈴 木 健 司	常磐西小学校
四日市市(中)	中 井 克 実	笹川中学校	長 尾 竜 二	塩浜中学校
三重 郡	大矢知 正 裕	竹永小学校	西 尾 奈緒子	菰野小学校
鈴 鹿 市	辻 井 康 博	鈴峰中学校	樋口 裕 康	愛宕小学校
亀 山 市	川 村 一 敬	中部中学校	加 藤 元 由	関小 学 校
津 市 北	平 松 有 吾	豊津小学校	吉 岡 良 江	東観中学校
津 市 中	加 藤 信 吾	櫛形小学校	竹 尾 到	東橋内中学校
津 市 南	奥 山 真 司	香海中学校	片 岡 弓	一志西小学校
松 阪 市	板 谷 昌 幸	大河内小学校	三 宅 孝 史	粥見小学校
多 気 郡	青 木 麻 純	日進小学校	池 下 浩 人	修正小学校
伊 勢 市	小 林 孝 久	五十鈴中学校	東 一 郎	中島小学校
度 会 郡	橋 川 雄 介	有田小学校	辻 早 織	大宮中学校
鳥 羽 市	松 本 栄	神鳥中学校	奥 山 能 隆	鳥羽小学校
志 摩 市	上 村 嘉 房	磯部中学校	西 口 幸 助	大王中学校
伊 賀 市	赤 井 理恵子	上野西小学校	吉 村 永 子	府中小学校
名 張 市	谷 口 和 也	名張中学校	但 馬 淑 夫	つつじが丘小学校
紀 北	橋 本 孝 祐	東小 学 校	福 山 貴 久	上里小学校
紀 南	岩 本 修 吾	御浜中学校	山 本 時 生	飛鳥小学校

令和4年度 新 任 教 頭 名

4月1日現在 127名

地域	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
北 勢	大柴 西直美 黒田 田和輝 小森 林宏 磯村 祐 高山 慶 山太 早 大長 隆 白河 貴 太田 智 姫井 竜 喚野 伸 落阿 昭 松合 教 渥岡 里 川美 宏 古嶋 知 梶浩 英	修徳小 明治正 治員田 員弁西 橋北小 水沢小 桜台小 富洲小 中中央 常磐部 菰野中 川越中 神戸小 庄内小 長太小 白鳥小 亀山小 関南	森清知 小林佳 曾根田 九鬼淳 鈴木孝 竹川恵 重内庸 樋口大 北村晃 高橋慎 中川貴 姫野加 猪尻マ 足立元 近澤麻 北川裕	星見ヶ丘小 員弁東 員弁中 高花平 泊山小 羽津北 四郷小 橋北中 楠上中 朝野中 栄浦小 鼓ヶ崎中 千代崎小 川崎小 野登小	佐藤真由美 竹神和昭 郡口友美 江西昌良 西式尾紀 羽井雅子 場宏幸 川上慎治 森井太郎 富島純子 増田広久 久保美奈 瀬古剛志 小野寺順子 加藤子剛	多度北小 笠間東 笹尾部 内三重 三桶重 富田中 内部中 朝日小 椿島小 桜ヶ浦中 鼓ヶ浦中 神辺小 白川小
津	竹伊花律子 伊大藤幸功 東杉司和 前浦潤徹 上川貴子 中田元正 昭村	村修主 修成 片田 橋北 誠之 戸木 白山	立藤真弓 水平野茂 杉山村陽 芳岡紀 川北哲 田直 栴田	みさとの丘学園(前期) 白塚小 西が丘小 豊里中 成大美 久三小 居東中	安藤陽子 久保直哉 伊東和美 草川彦 由記	大里小 南が丘小 桃園中 桃一志
松 阪	村林正樹 湯浅千夏 湯田文雄 福浦俊行 尾上修一	第中二 中南川 宮多川 多氣	板谷珠季 川上大美 後藤俊介 中西	伊勢寺 天白町 殿田 津	鈴木良英 小泉恵希 松井航一	漕代小 幸宮小 斎宮小
南 勢 ・ 志 摩	酒徳伊奈 川井良成 中野美奈 二見哲子 中岡能生 奥山純清 濱山口隆 西口幸助	進明修 明野野 御蘭宮 大神島 神鳥羽 鳥大王 大大王	竹田圭 志賀幸代 富士井幸彦 木下嘉人 廣脇正嗣 井上雅	豊浜西 宮山見 二見中 菅島東 鳥羽海 東小	大島加愛 沖河雅子 浜田一光 田中山幸 内城山優 城山崇	上野浦小 二見侯小 安楽島小 加茂島中 加茂島中
伊 賀	富田直美 福澤永紀 澤田高志	上野北 友生峰 霊中	池田かおり 後藤真弓	三訪小 神戸小	葛原晃 森川誠子	中瀬山小 阿山小
名 張	宮本正寛 曾和良友	箕曲小 藏持小	加藤創太 福増尚子	桔梗が丘南 すずらん台小	田中朋子	名張小
紀 北	山本浩蔵 遠藤智晶	矢浜小 潮南中	三鬼敏基	矢口小	小久保美子	船津小
紀 南	奥永丈治 中村知行 濱田耕司 宮崎浩伸	新鹿小 五郷小 成川小 尾呂志園中	志賀剛 泉祐三 西村洋一	有馬志園 尾呂志山小 神志山小	阪口彦彦 増井克充 伸森久	金神山小 神内本中

新しい風



ワクワク&安心

桑名市立修徳小学校

大西直美

昨年度末に前任校の校長より「修徳小学校教頭への昇任おめでとう」とお言葉をいただいたとき、数十年の中学校現場のみで、未知の世界、教育実習以来の初小学校という衝撃の事実に恐れおののき！でした。4月に赴任した際、机の小ささ、階段の段差の低さなど、何もかもが新鮮・・・と言えば聞こえがいいですが、わからないことばかり。1年生の下校指導では、まっすぐに並ばせられずに、どうしたものかと悩み（中3は簡単に並ばせられるのですが）、また、教育委員会への時間割関係の提出書類では、初めて見る様式で書かれている意味すらわからず、小、中の文化の違いをまざまざと肌で感じている日々でした。そんな新米教頭を、校長先生をはじめ、周りの先生方は新学期の慌ただしい中、一つずつ丁寧に教えてくださり、且つ、常に笑顔で！本当に感謝しかありません。

こどもたちがワクワクして通える学校、先生たちが「よし、今日はこれやってみよう」と学級、



127名の方が本年度新しく教頭として着任されました。フレッシュな声をお届けします。

授業作りにワクワクできる学校、そして、保護者の方々が、安心して送り出していただける学校を目指して、まだまだ迷走してばかり、教えてもらうことばかりの毎日ですが、何をすべきかをきちんと判断し、全力を尽くしていきたいと思います。



目線は低く、 アンテナは高く

いなべ市立笠間小学校

竹神和昭

大学を卒業して24年、中学校現場にしかいなかった僕が、この4月から小学校の教頭をさせていただいています。中学3年生を卒業させ、新たに1年生を担当するのでも、そのギャップに戸惑いを覚えたものですが、中学3年生から小学校、さらに小学1年生となると、毎日が初体験の連続です。（教頭という立場での初体験もいっぱいですが…）

私の朝は、昇降口で児童たちに挨拶をすることから始まります。そして、検温を忘れた子たちに検温をし、カードを渡します。この時の姿勢はいつも膝をついています。子どもたちと同じ目線で話すことを心掛けているからです。いつも誰かが寄ってきてくれます。誰かが話しかけてくると我も我もと話しかけてきてくれる子たちや膝立ちしている僕の背中に登ってくる子がいます。中学校勤務をしていた時にはありえない体験です。

小学校勤務をして、職員室に誰もいないという当たり前に衝撃を受けました。先生方に用がある時は僕が教室に足を運びます。先生方の児

童への接し方も勉強させてもらっています。僕が教室に行くと、声をかけてくれる子どもたちがいます。勉強したことを見せてくれます。褒めるととてもうれしそうにしてくれます。4月の1・2年生の下校で一緒に歩き、いっぱい話をしました。

児童が帰った後、職員室で先生方は子どもの姿の交流や授業の準備・相談をされています。皆さん、忙しそうにされていますが、新米教頭が困って質問をすると必ず、仕事の手を止め、何人かの先生が教えてくれます。今、僕が先生方にお返しできるのは、膝をつき、子どもと話した中で得た情報をお伝えすることくらいです。

職員室でも目線を低く、アンテナを高くし、1日も早く、仕事を覚え、先生方の負担を軽減できる教頭にならなければ…と思っています。



自分にできること

四日市市立中央小学校

太田 貴志

3年間の市教委での勤務を終え、久しぶりの学校での勤務に胸躍らせ、早くも2か月が経ちました。この2か月間、提出する書類の多さや新型コロナウイルス感染症の対応等に追われながらも、校長先生をはじめ職場の先生方や前任の教頭先生に支えていただき、何とか乗り切ることができました。そんな私ですが、昨年度末、教頭としての赴任が決まってから、上司から「教頭の心構え」として2つのことを教えていただきました。1つ目は、「先生に話しかけられたら、手をとめて笑顔で話をきくこと」、2つ目は、「先生たちが安心して話（相談）しやすいようにすること」です。

2か月間を振り返ってみると、1つ目は、ある程度意識できたつもりです。どんなに忙しくても、先生たちが話しかけてきたら傾聴するよ

うに心がけてきました。しかし、2つ目についてはあまり出来ていなかったように思います。次から次へとおりにくる文書の作成のため、自分に余裕がなく、日々パソコンと向き合っばかりで、先生たちが気軽に話しかけやすい雰囲気ではなかったと反省しています。

2か月が経ち、少しずつ自分のペースがつかめてきました。ここでもう一度「自分にできることは何か」を考え、子どもたちはもちろん、先生たちも安心して過ごせるように、日々努力していきたいと思っています。



「生徒とともに」から…

四日市市立橋北中学校

樋口 大祐

私が教師になりたての20代前半のころ、一回りも二回りも上の先輩の先生方から、たくさんのことを教わり、教師としての礎を築きました。その教えの中でも、「つねに生徒とともに動きなさい。」「教科指導、学級指導、部活動指導のどれか1つでも自信を持って指導できるようになりなさい。」「教師の給料の半分は生徒指導だから、生徒指導を大切にみなさい。」という言葉が、20年以上ずっと心の片隅にありました。最初のころはうまくいかないことも多かったですが、初任から昨年度の3月まで、授業、学級経営、部活動、生徒指導、手を抜くことなく全力で生徒に向き合ってきたつもりです。

しかし、この4月から、教頭になり教諭という立場ではなくなった今、生徒…、授業…、学級…、部活動…、生指…、すべてが遠い存在になったような喪失感が生じると同時に、何に力を注いだらよいのか、自身の向かう方向性すらわからなくなりました。前述したことを教えてくださった先生方も、ずいぶん前に管理職になられ、すでに退職された方もいますが、教頭と

して何を考え、何を意識し、何に力を注ぐべきか…、4月当初は再び教えを乞いたいという思いでいっぱいでした。

ただ、教頭となり、1か月、2か月と過ごすうちに、今までと同じだということに気づかされました。その理由は、職場の先生方からオンラインの授業支援ツールなどを活用したパフォーマンス課題や見方・考え方を意識した指導と評価についての相談を受けたり、トラブルのあった生徒の指導やその保護者の対応を先生方と一緒に考え、方向性を見出したり、職場の先生方を介して生徒と関わっていけることを実感したからです。また、メンターとして職場の先生方の力になることで、生徒の成長に携わっていることにも気づきました。だからこそ、教頭となった今、自分自身の教育に関する学びの歩みを緩めてはいけないうし、この先の時代を生き抜いていく子どもたちを育むために、先生方とともに研鑽を積んでいきたいと思うようになりました。「生徒とともに」から、「先生方とともに」&「生徒のために」にと、少し変化はしましたが、生徒のために、先生方とともに、教頭として全力を尽くしていけばいいんだと、決意を新たに充実した毎日を過ごしています。



小さな町から 広い世界へ！

三重郡朝日町立朝日小学校

富島純子

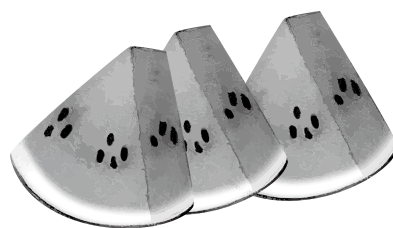
新任教頭として赴任したのは、25年前に教員生活をスタートさせた思い出深い学校でした。当時400名程だった児童数は、平成26年に1000名を超え、プレハブ校舎が広がる大きな学校になっていました。校舎の中心には、以前と変わらず朝日小学校のシンボルである円形校舎。故郷に帰ってきたような、ほっとした気持ちになりました。

4月、右も左もわからない状態の中、飛び込んできたのは外国からの転入生の話。日本語が全く分からないとのことで、どのように受け入れを行うか、支援体制をどう組むか、校長や教委と話し合いを重ねました。支援員の配置や外国語指導員の勤務等、柔軟に対応していただき、ニーズに応じた支援をひとまずスタートさせることができました。

三重県では児童生徒数が減少傾向にある一方で、日本語指導を必要とする児童生徒数は年々増加しています。県内の約35%の学校に当該児童生徒が在籍することを受け、教頭として受け入れ態勢の整備や日本語指導、適応教室等についての情報を正しく知り、自校に在籍する子どもたちや保護者に応じた適切な支援体制を整えていくことが大切であると、改めて実感しました。冒頭の転入生に対しても、今後どのように支援を進めていくか、まだまだ課題が多くあります。

取り出し授業を行っている教室に入ると、「きょうとうせんせい、おはようございます。」と覚えてたの日本語で満面の笑顔であいさつしてくれます。机の上には、「みえこさんのにほんご」。一生懸命、数字の読み方を覚えていました。一方で、3年生の教室の廊下には、自主学习ノートのコピーが掲示してありました。「【スペイン語のあいさつ】Gracias. (グラシアス) ありがとう, Hasta mañana. (アスタマニャーナ) また明日…。…スペイン語であいさつしてみたいな。早く友だちになりたいな。」

小さな町から、広い世界へ羽ばたく子どもたちを、精一杯応援したいと思っています。





一日も早く 一人前に！

鈴鹿市立庄内小学校

喚 阿 教 子

新任教頭として赴任し、2か月が過ぎました。「教頭先生」と呼ばれることに、少しずつ慣れてはきたものの、次々に来る文書の処理、数々の報告、地域や様々なコミュニティとの連絡・調整、スズメバチ退治、サル撃退…等々、慣れない仕事内容に戸惑いながら、ただひたすら目の前にある業務をこなすだけで日が暮れていく毎日です。

大変な仕事だと覚悟は決めていたものの、実際に自分が教頭になってみてわかった、想像を超える仕事量の多さ。それと同時に、「こんなことまで教頭先生はしてくれていたんだ・・・」と今まで自分が気持ちよく働くことができたのは、教頭先生が黙って陰で支えてくださっていたおかげだったんだということに気づき、感謝の気持ちでいっぱいになります。

そして改めて、今まで出会ってきた管理職の先生方の偉大さを感じます。何ともスマートに仕事をこなし、「大丈夫？手伝おうか？」と職員に声をかけ、質問に対してすぐに答えてくれる、親身に相談にのってくれる、的確なアドバイスをしてくれる…。

今は、校長先生をはじめ前任の教頭先生、先輩管理職の先生方、職場の皆様を支えられながらの日々で、まだまだ力不足ですが、今まで私たちを支えてくださった管理職の先生方のように



になれるよう頑張ります。同期の仲間たちも心強い存在です。わからないことを教えあったり、情報を共有したり、横のつながりのありがたさや大切さを、日々感じているところです。これからも、人とのつながりや思いを大切にしながら、誰もが明るい気持ちで楽しく仕事ができる職場をめざし、教頭として1日も早く一人前になれるように頑張ります。



人との出会いを 大切に…

亀山市立関中学校

古 梶 浩 之

まさか、教員生活のスタートの地である亀山に11年ぶりに戻ってくるとは、1年前は考えてもみませんでした。前任校での当たり前の生活・景色との別れに、後ろ髪引かれる思いで新天地にやってきたのも事実でした。前任校では、学年主任として学年の生徒たちや職員と乗った船をどのように目的地へ導けば良いかを考え、失敗もありながら充実した教育実践の時間を過ごしました。また、これまでの教員生活で大切にしてきたのは、自分の学年だけでなく、学年間をどのように泳ぎ、交流するかを考え、職員全体の様子を管理職と共有し、支えることでした。この事を教えてくださったのは、初任で6年間勤務した亀山の管理職の先生方や同僚の先生方でした。亀山と決まった時、「これも何かの縁」と気持ちを切り替えて、今は恩返しの舞台で自分にできることを考えて行動していこうと考えています。

そして、あっという間の2か月が過ぎましたが、教諭であった自分と管理職である自分との切り替えがまだできず、様々な場面で「教頭として取るべき行動はどうするべきなのか」と自問自答し、異動により変化した職員間のつながりを再構築していく日々が続いています。

その中で、校長先生には懇切丁寧に指導していただき、様々な場面で甘えてしまう2か月だったと思います。たくさんの経験を日々の糧として、早く職員の力となり、頼ってもらえるような教頭になれるように頑張ります。

今の自分があるのは、同僚職員や生徒はもちろん、自分に関わるすべての人との出会いのおかげであると感じながら、教員生活を送ってきました。これからも、人との出会いを大切に、『日々成長、日々前進』をモットーに教頭としての任務を果たしていけるように精進していきたいと思っています。



たくさんの人に 支えられて

津市立村主小学校

竹花 律子

教頭として赴任先が決まった3月末。新任教頭研修会で、「先生方、4月1日から切り替われますか」という言葉を教育長からいただきました。「担任業務とは全く違った仕事内容」「転職したみたい」等、今までお世話になった管理職の先生方からお聞きしていた私は、「よし！切り替え。新たなスタートを切るぞ！」と簡単に考えていました。

4月。いざ教頭として赴任し、初日から職員会議の提案、多方面からの電話・来客対応、そして、パソコンに大量に送られてくる期限付提出文書の数々…何からどう手をつけていいのかわからず、あっという間に机の上は書類の山。自分のことだけで精一杯の私は、周りを見ることなど全くできない状態でした。思考はネガティブ。昨年まで担任していた子どもたちとの楽しかったことばかり思い出し、「この先やっていけるのか」と不安でたまらない毎日を過ごしていました。

そんな時、1年生の下校指導で地域の方から

声をかけていただきました。「先生、初めはみんなゼロからよ。少しずつゆっくり進んでいけばいいの。無理せず、先生のペースでね」多分、不安でいっぱいのオーラが伝わって、声をかけてくださったのでしょうか。私は、ほっとして、張りつめていた心が一気に緩み下校指導の帰り道、涙が溢れてきました。

学校に戻ると、校長先生をはじめ、職場のみなさんが私にさまざまな声かけをして、支えてくださっていることに気がつきました。

今、教頭として2か月が経ちました。たくさんの人に支えられて、やっと気持ちを切り替えることができた私。仕事にやりがいも少しずつ感じるようになってきました。この先、子どもたちや職場のみなさんをしっかりと支え、信頼してもらえる存在になれるよう「笑顔」を大切に、いつも「ポジティブ」に、私らしく頑張っていきたいと思っています。



新任教頭として

津市立南が丘小学校

久保 直哉

令和4年4月1日。この日を境に私の生活は一変しました。スーツにネクタイ。そして、革靴。私の気持ちもこれまでとは一変しました。やる気はあるものの「何をしたらいいんだろう」「職責を果たせるだろうか」という不安に支配され始めました。

報告文書作成、会議、保護者対応、補欠授業、生徒指導対応など、多岐に渡り、多忙さ、大変さに押しつぶされそうになっています。その半面、今まで、先輩の教頭先生方が「こんなこともして下さっていたんだ」「大変さを周りに見せず、穏やかに接して下さっていたんだ」と学校を裏で支えて下さっていたんだということを改めて実感しています。教頭先生がいな

いと学校が回らないという意味が分かってきました。

また、教頭としての仕事で大切なことを痛感させられていることがあります。それは、一歩先二歩先を見て仕事をするということです。先輩の教頭先生は、常に先をみて仕事をされています。そうすることが、スムーズな学校運営につながるとともに、職員の仕事が効率的に進み、働き方改革にもつながっているということがわかってきました。

教頭として「嬉しいな」、「やりがいを感じるな」と思う瞬間があります。それは、先生方が頼ってきてくれた時です。その内容は、保護者対応、生徒指導、コロナ対応等、本当に多岐に渡ります。まだまだ未熟でベストな答えを導き出せているかどうか分かりませんが、先生方の話を丁寧に聴き、一緒に考えることを重視しています。

先輩の教頭先生が言われた言葉で印象に残っているものがあります。それは「教頭は、現場の先生たちに育てられて、教頭になるのだ」という言葉です。この言葉を肝に銘じながら、私は、これから職場の先生方、保護者や地域の方とのコミュニケーションを大切にしながら、学校のために、子ども達のためにがんばっていきたいと思います。



チーム戸木を めざして

津市立戸木小学校

上 田 貴 正

市教委4年、県教委3年の勤務を終え、久しぶりの学校生活を迎えることになりました。

初日の地域やPTAの役員の方々への挨拶回りから始まり、1週間ほどで、実にたくさんの方々とお会いすることになりました。校長先生から聞くところによると、本校は、学校と地域の方々がさまざまな場面で協働して子どもたち

の教育活動に取り組んでいるということでした。すぐさま頭に浮かんだ言葉が、「チーム学校」でした。

話は変わりますが、市教委生徒指導担当指導主事の職にあった4年間、子どもたちや家庭の複雑かつ多様な課題解決には、学校だけでは限界があるという現状を常に目の当たりにしてきました。そのため、SCやSSW、地域の民生児童委員の方々、福祉、保健、医療、警察等、多職種連携による支援体制づくりを推進してきました。学校が、さまざまな経験、専門性を活用し、協働して取り組める「チーム学校」づくりが大切だと実感し続けてきました。

今、本校では授業をはじめ、さまざまな教育活動の場で、たくさんの方々の経験や専門性等を子どもたちの成長につなげるため、日々取り組みを進めています。これまで思い続けていた「チーム学校」、「チーム戸木」づくりの実践が始まります。教頭としての立場からどのようなことができるだろうか毎日頭を悩ませながらも、ワクワク感のようなものを感じながら一日一日を過ごしています。

今年度の私自身の自己目標の筆頭に、「教職員、保護者、地域の方と教育目標の実現に向けて、協働して取り組む学校づくり」を掲げました。膨大で守備範囲の広い業務に追われる日々ですが、「目標を見失わず、1歩ずつ」と自分に言い聞かせ、励ましている今日この頃です。



明日も行きたい 学校に！

松阪市立伊勢寺小学校

板 谷 珠 希

不安いっぱい4月が始まり、初めての教頭業務に右往左往しながら、着任から2か月が過ぎました。校長先生をはじめ、とても明るくパワフルな職場のなかま、前任の教頭先生にもい

ろいろ教えを受けて、これまで何とか業務をこなしてきています。本当に周りの皆さんに支えてもらっています。そして、ここにきてようやく伊勢寺小の子どもたちのことも分かりかけてきていて、今まさにこれからという状態です。

自分が赴任している伊勢寺小学校は農業地域で、いざ学校で農業の勉強をさせてほしいと依頼すると、地域の方が、学校のためにいろんな場面でたくさん助けてくださいます。これまでも、米作りやさつまいもの苗植え、さくらんぼ狩りなど体験させていただきました。また、保護者の方もいつも温かい言葉をかけていただき、私は地域からも保護者の皆さんからも毎日元気をいただいています。

子どもたちや職場の皆さんが、学校のスローガンの「明日も行きたい伊勢寺小学校」になっていけるように、そして、さらに良い学校になっていくように、自分にできることを考えながら過ごしていきたいと思っています。



「1 歩ずつ」

多気町松阪市学校組合立多気中学校

尾上 修一

数年ぶりの学校現場での勤務に、嬉しさと不安の入り混じった複雑な思いで4月1日を迎え、最初の職員会議に臨みました。資料には事前に目を通しておいたものの、読み上げながらその内容を十分に理解できていない自分に歯がゆさを感じ、自分だけが取り残されたような気分のまま初日が終わりました。その後も、始業式や入学式、PTA関連の会議等、目まぐるしい早さで行事が押し寄せてきます。「まず何をすればよいのだろうか」「関係ファイルはどこに保存してあるのだろうか」など、常に「？」が付きまとい、気が付けば受話器を握りしめ、前任の方に電話をかける毎日でした。1か月が過ぎ

た今でも、たまにお世話になっています。

また、今では全国の学校で当たり前の光景となったICTを活用した授業も、とても新鮮に感じています。授業だけでなく校内研修など、あらゆる場面でタブレットを使った教育活動が繰り広げられ、自分自身が教壇に立っていたころとの違いを実感しています。

「早く今の環境に慣れ、みなさんに迷惑をかけないようにしなくては」と焦りながらも、自分の仕事にまだまだ自信が持てず反省の毎日ですが、職場のみなさんの温かい言葉に救われる毎日です。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。職場だけでなく、生徒や保護者、地域の方々にも信頼される教頭となれるよう、1歩ずつ努力してまいります。今後とも、よろしくお願いします。



「誰かの力になれるよう」

伊勢市立御園中学校

中野 美奈子

毎朝、生徒たちは元気に登校してきます。その様子を見ると、今日は少し疲れが残っているなどと思う日も「よし、頑張ろう」と思えてきて、生徒から力ももらっています。

教頭としての着任が決まると「初めは本当に大変だと思うけれど、どうぞ体には気をつけて」と多くの先輩方から声をかけていただきました。どのようなスタートになるのか予想がつかないまま4月を迎えましたが、その言葉どおり、未だ新しく覚えなければならないことがたくさんあって、提出書類をまとめるだけで精一杯の忙しい毎日です。そのような中で、自分1人では何もできないということを実感しています。事務的な仕事は校長先生をはじめ、事務職員の方や多くの方々に助けていただいています。また、生徒たちを熱心に指導してくださる先生方、そ

して、地域や関係機関の方々など本当にたくさんの方に支えていただいていることに改めて気づかされました。

この2か月間、私には、何とかしなければというあせりがあったと思います。しかし今はまだ、多くの方々のお力を借りながら一つひとつ地道に職務を果たしていきたいと思っています。私が教頭を目指したのは、教頭として私にできることがあるならば、その力を生かしてみたいと思ったからです。これからも気負わずあせらず、いろいろな経験を重ねながら、今度は私が誰かの力になれるように頑張りたいと思います。



何で教頭先生になったん？

大紀町立大宮小学校

二見哲生

4月、大宮小に教頭として赴任した。「教頭は超多忙だ」といろんな人から聞かされてはいたが、その通りであった。4月から5月の自分の仕事は、毎日が忙しく、何がどこにあるのかわからないことも多く、やり忘れていることも多く、仕事に追われる毎日であった。また日々、教頭としてきちんとこなせているのかと自問自答する日が続いた。

5月の忙しいある日、低学年の補欠授業に入った。そのとき児童から「教頭先生は、何で教頭先生になったん？教頭先生になってどうすんの？」と聞かれた。「そうやなあ、みんなと勉強できるでかな・・・」言葉を濁していた。その後、ちょっと考えてみた。「なぜ教頭になっ

たんかな、教頭になってできることって何かなあ？自分は、度会養護学校（現度会特別支援学校）をスタートし、小学校に異動し複式学級を担当し、小規模校、大規模校を回って、行政（教育委員会）にも行って、昨年度は、教育支援センターで不登校の子と関わったなあ。いろいろあった30年間か…。あっ、そうか。この経験を伝えられる。うまくいったこと、失敗したことを活かして先生たちにアドバイスができる。これやっ」心の中で、何で教頭先生になったんと質問した児童にお礼を言っていた。心のもやもやも少し晴れた。

教頭の仕事は、管理職として校長と教職員をつなぐ役割、地域の窓口としての役割等たくさんある。これからは自分が教えてもらったこと、学んだこと、経験してきたことを返していく番である。このことを肝に銘じ、児童に「何で教頭先生になったん」と聞かれたら「先生たちのことを、いっぱい、いっぱいお手伝いしたいでなったんさ」と笑顔で話せる教頭でありたい。



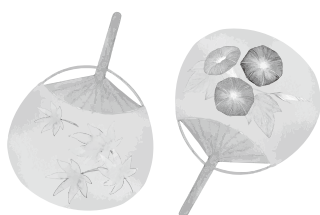
身の引き締まること、心が和らぐこと

鳥羽市立鳥羽小学校

奥山能隆

縁あって、以前教諭として勤務していた本校で、10年ぶりに働く機会をいただきました。管理職として赴任したものの、まわりの皆様に助けていただいていることを実感する毎日です。そんな日々は、身の引き締まる思いがすることと、心が和らぐことに彩られているように思います。

日々の業務の中で、きっちりとこなすことが求められるものの、なかなか納得のいく仕事ができいないと感ずることがあります。様々な業務の進捗状況とスケジュールの把握、学校としての動きを考えることです。



出張、行事等のスケジュールは把握をしていますが、教頭として知っておくべきことは、さらに多くあることもあります。また、行事を進めるとともに、今後の学校としての進め方や方向性を考えておくことも必要です。いずれも頭ではわかっていたつもりですが、実際に教頭という職に身を置いてみると、その仕事の奥深さや責任の重さに身が引き締まります。

日々の業務の中で、子どもと関わる機会もいただいています。昇降口での朝の出迎えやスクールバスの見守り、出張等の補欠といった機会です。

昇降口での朝の出迎え、下校時のスクールバスの乗車児童の確認をしていくことで、子どもと名前を確かめながら会話をすることができました。出張等の補欠に入るときには、担任をしていたころとは、違った視点で子どもたちと関わることができ、様々な気づきもいただきました。なかなか職員室から出る余裕のない中、そんな子どもたちとの時間は大切な業務であると同時に、心が和らぐひと時となっています。

このような日々を過ごす中で、少しずつでも成長できるよう努めています。そして、頼りになる教頭になっていきたいという思いを強くしています。



どう答えたら 良かったの？

志摩市立東海小学校

井上 雅 嗣

「教頭先生は、どんな仕事をしているんですか？」

4年国語科授業の取組で、児童が職員室に来て、こう質問してきました。事前に聞いていた質問は「好きな食べ物は何かですか？」「何の教科が好きですか？」でしたので、「よーし、ここは何かおもしろい回答をしてやろう！」と楽

しみに待っていたらこの質問。

「あ、えーっと、あの一、うーん…」

戸惑う教頭の姿を、キラキラとした目でじっと見つめて待つ子ども。

「せ、先生たちがね、働きやすいように色々な仕事をしているんやよ。ほら、こんなプリント作ったり、ホワイトボードに予定書いたり…ね…」

その子は素直にメモを取りながらも、「何かよくわからないなあ」といった顔で帰って行きました。

教頭になり2か月が経ちましたが、今までお世話になった教頭先生の方々が、これほどの業務をやってくださっていたのかと驚くと同時に、教頭先生に頼ってばかりだったことを反省する日々です。この業務を一言で説明するのは難しいことですが、「教頭は、校長を助け、校務を整理し、及び必要に応じ児童の教育をつかさどる」という学校教育法の一文は、今更ながら「なるほど」と思います。

職員みんなが、毎日笑顔で生き生きと子どもの話をし、「この学校のために！この子たちのために！」という熱意を持って、自分にできることを考え動く。教頭がその職員のケア・サポートをする。

そんな学校づくりを助けるのが教頭の職務なのだ改めて感じています。あながち、あの答え方は間違ってたのかもしれない。



先生方を 支えられる存在に

伊賀市立上野北小学校

富田 直 美

今年から初任の教頭として勤めることになった学校は、2つの学校が統合してできた3年目の新しい学校です。以前、教諭として勤めていた学校の校区が含まれ、自分にとっては縁のあ

る地でもあったため、懐かしい思いで初日を迎えました。しかし、そこから、気がつけばすでに1か月半が過ぎていました。

この間、書類提出、学校の予定の把握等々…教頭の業務は分からないことが多く、失敗もたくさんありましたが、校長先生や先輩の教頭先生、職場の先生など、いろいろな先生方に助けていただきながら過ごしてきました。教諭ではなく「管理職」として考えなければならぬことがたくさんあることを知るとともに、「次はこうしてみよう」と、失敗を経験するからこそ考えられることもたくさんありました。

今まで教諭として過ごしてきた日々の中で、いろいろと相談にのっていただいたり助けていただいたりしていた教頭先生方は、日々、この仕事をする中で自分たちを支えていてくださっていたのだということを実感しています。

今、上野北小学校で担任をしている先生方は、とても若く、行動力のある先生方です。長年経験を積んでこられた先生方が支え、見守っています。最近、少しずつですが、その先生方の相談も受けるようになってきました。

先輩の教頭先生方のように、今度は自分がこれまでの経験を生かし、職場の先生方を支えられる存在になれるよう、日々がんばっていきたいと思います。



新しい気持ちで

名張市立名張小学校

田中 朋子

3年ぶりに学校現場に戻ってきましたが、3年の間に学校は大きく変化していました。GIGAスクール構想で配備された1人1台タブレット。もちろん教師も率先して活用しないといけません。便利な使い方を先生方に教えてもらいながら、教員間の連絡や打ち合わせ、会

議に使っています。さらに、コミュニティ・スクールの推進により、読み聞かせ、下校のサポート、除草作業などたくさんの地域ボランティアの方が学校に関わってくださっており、顔も名前もまだ覚えられていませんが、失礼のないようをお願いをしています。一番の変化は、やはり新型コロナウイルス感染症の影響です。健康観察や手指消毒は習慣化し、マスク生活が当たり前になりました。給食中に教室を覗いた時、子どもたちの黙食が徹底されていたことには驚きました。今年度は、コロナ禍で中止となっていた学校行事も少しずつ復活をしていこうということで、3年前のデータを引っ張り出しながら職員会議での提案を進めている所です。

「教頭先生は『何でも屋さん』だからね」と言われる通り、メールや文書のチェック、施設管理、電話対応や社会体育団体との連絡、調査の締め切りなどに追われて、4月の記憶はないほどでした。2か月たち、最近ようやく先生方の話をゆっくり聞けるようになりました。子どもたちから声をかけてもらえるようにもなりました。「ここの席に座っていたら、自然と教頭になれるよ」と前任の教頭先生に言われた言葉の意味が、なんとなく理解できるようになってきた今日この頃です。

今までたくさんの方に教えられ支えられてきました。そのことを糧にしながら、これからも「職員室の担任」として、先生方が気持ちよく子どもたちに向き合えるような雰囲気づくりに努めていきたいと思っています。



今の自分に できること

尾鷲市立矢浜小学校

山本 浩蔵

自分もそれなりに経験年数を積んできて、若い世代の先生たちの悩みや葛藤をききながら仕

事をする事が多くなってきました。そして、若い先生方をはじめ、同年代や年上の先生方が病休になる様子や職を辞する現実を目の当たりにしてきました。もちろん、明日はわが身であると思ひながら…。

次第に「働きやすい学校で働きたい」という考えが「働きやすい学校をつくりたい」という考えになりました。どの仕事もそうですが、私たちの「教職員」という仕事も社会的にとっても大きな責任をもっています。そして、子どもたちの姿があります。でもその責任を遂行していくには、経験年数に関わらず、不安や心配事が重なります。これでいいのかと思い、悩むことも多い仕事です。きっとその思いを一人ひとりの教職員がもっています。だからこそ、働きやすい毎日をつくる力になりたい。

それはどのようにすれば実現できるのだろうか、毎日をすごしています。でも、自分の至らなさに今更ながら気づかされます。

今の勤務校にも教職1年目だったり、講師経験があるものの新規採用の先生がいてくれたりしています。「どうやって子どもたちに話せば伝わるのか」など不安や心配事の毎日なんだろうなと思ってみえています。そんな中「子どもの話をしっかりと聞いてやりたい」と「きくこと」を大事にしている先生がいてくれたり、経験が浅いもののこれまでの経験を大事にしながら、あたらしい経験をしていこうとする先生をみる事ができたり、勤務校1年目のわたしに「教頭先生、この行事はこれまでこうやってきましたよ」と教えてくれたり、この1か月の間、職場でのすてきな姿やつながりを感じることができています。子どもたちはそんな先生方を信頼しています。そんな様子を見てみると、目の前にずっと光が差し込むような気持ちになれます。この先、限られた時間、今の学校で、どんなことがあっても校長先生をはじめ、周りの先生たちといっしょに仕事をしていきたい。強く思い

ます。そして、今の自分になにができるか。いまのところそれは、「いっしょに考えること・動くこと」だと思っています。



すてきな子ども たちとの出会い

御浜町立神志山小学校

西村 洋一

長い单身生活を終え、久しぶりの学校現場への復帰となりました。この間現場は、新学習指導要領にGIGAスクール構想、新型コロナウイルス感染拡大防止による様々な行事の見直しや感染対策の数々等大きく変わっていました。

3月に引継ぎを終え、4月を迎えるにあたって、「教科書の内容どんな風変わったんやろ?」「チョークで字よう書くやろか?」「この機種タブレット端末は触ったことないけど、授業でよう使うかな?」教頭業務の心配は当然ありましたが、直接子どもたちと向き合う授業のことも不安でいっぱいでした。

そんな中、出会った子どもたちは、自分から大きな声で挨拶する子、自分で仕事を見つけて行動する子、授業では積極的に発表したり話し合ったりする子など、意欲的に学校生活を楽しんでいました。子どもたちの姿に不安はいっぺんになくなり、毎日子どもたちと過ごすことがうれしくてたまらなくなりました。久しぶりに味わう子どもたちとの交流がなんとも心地よく、あらためて子どもたちのためにがんばらなければと思っているところです。



郡市だより

城田中だからできること

伊勢市立城田中学校 下 田 敦 子

スクールカラーは緑。校舎から見下ろす景色は緑の田園風景。学び舎には159人の緑ジャージ。清流で知られる宮川のほど近くに城田中学校があります。「春には桜、夏には神宮奉納花火大会」でご存じの方も多いのではないでしょうか。ここ5年で伊勢市内の中学校は12校から10校へと適正配置がなされました。城田中学校は、その10校の中で校舎が最も小さく古く、生徒数が最も少ない中学校です。昭和レトロな校舎、穏やかで落ち着いた生徒、気さくで温かな地域、そんな城田中で4年目を迎えています。

「城田中だからできることをさせたく давайте」城田中に赴任して2年目のPTA本部役員のお母さんのこの言葉を大切に学校運営に努めています。ときどきこの言葉を思い出し、あのお母さんの期待に応えられているだろうかと振り返っています。

コロナ禍の前は、文化祭で食券の販売を行っていました。その品数の多さに驚いたものでした。限られたPTA委員さんでしたが、子どもたちの喜ぶ顔をみたいから、と何度も会議を開き、いくつものお店に値段や数の交渉をしてくれていました。体育祭のお昼休みには飲み物の販売もPTAが行っていました。私自身の小学生のころを思い出するような懐かしさがありました。学校行事に飲食は必要ないと言えばそれまでですが、これもまた、「城田中だからできること」だったのかと思います。

GIGAスクール構想の実現に向けて、市教委から生徒にタブレットが配付された令和3年2月。小規模であったからこそどこよりも早く生徒の手にタブレットを渡すことができました。家庭への



持ち帰りを心配する声が各方面から聞こえてきていましたが、「城田の子なら」と即座に持ち帰りも実現させました。何か問題があればその時に対応できる、「城田中だからできる」と校長先生の判断でした。

昨年度の体育祭は、9月のオンライン授業期間の影響やグラウンドに工事が入っていたこともあり、宮川堤公園内にあるトラックを利用して開催しました。片道歩きで20分ほど。予行練習なしのぶっつけ本番の半日開催。まさに、「城田中だからできた」体育祭。いつもよりキラキラしていた生徒を保護者に見てもらえなかったことが余計に悔やまれました。制服の衣替えをなくしました。部活動も任意制にしました。生徒の実態や社会の変化に合わせた対応も迅速に行えるのも「城田中だから」。職員数も少なく、意思疎通が図りやすい。もちろん職員それぞれのカラーはありますが、生徒を大事に思う心は一つ。全職員、全校生徒チームグリーンで「城田中だからできること」に取り組んでいます。

